

避難する場所を 考えておきましょう



WEB版
防災マップ

市では、今年3月に「防災マップ」を更新し、土砂災害特別警戒区域を追加するなどしました。また、スマートフォンにも対応のWEB版では、地図の拡大・縮小機能を備え、より詳細な情報の閲覧が可能のほか、広域避難場所などの検索や、地図情報の印刷もできます。外国籍のかたも利用できるよう英語、中国語、スペイン語、ベトナム語にも対応しています。防災マップを参考に、自宅などの災害リスクや、災害発生時に避難する場所・経路などを考えておきましょう。

AED設置場所
市内に設置されているAED(自動体外式除細動器)について、次の二次元バーコードから調べることができます。

避難場所・避難所について
指定緊急避難場所
災害の危険から命を守るために緊急的に避難する場所です。市では地震や洪水など災害種別ごとに指定しています。

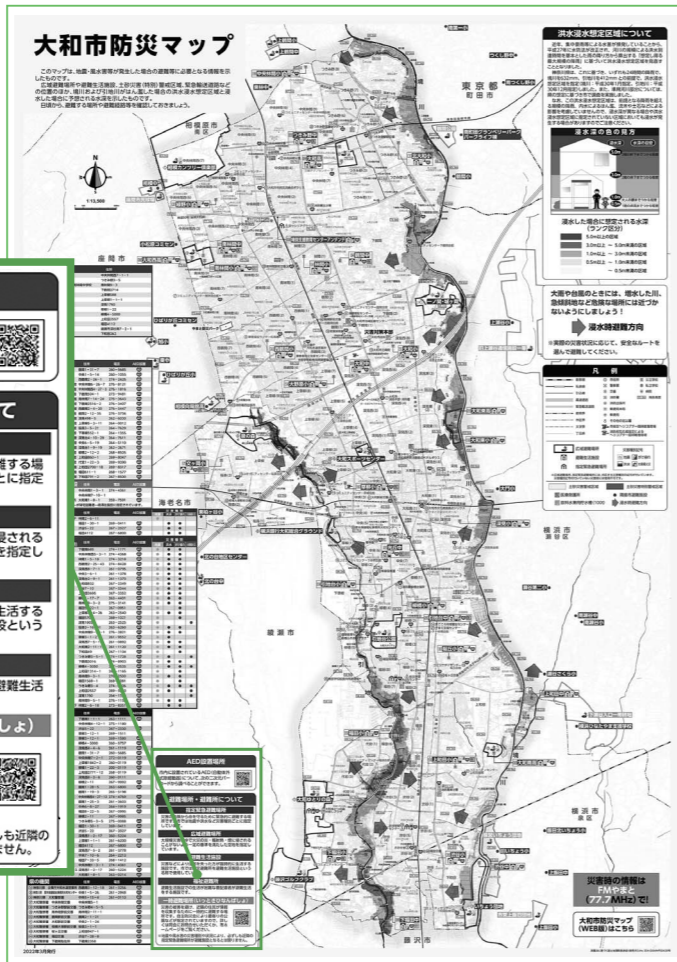
広域避難場所
大規模災害の中で火災の炎・輻射熱・煙に侵されることがないよう一定の基準を満たした空を指定しています。

避難生活施設
災害などにより住居を失った方が臨時的に生活する施設です。市では指定避難所を避難生活施設という名称で使用しています。

福祉避難所
避難生活施設での生活が困難な要配慮者が避難生活をする施設です。

一時避難場所(いつときひなんしょ)
災害の被害を避け、近隣の住民が情報を収集するために一時的に避難する場所です。自主防災会により最寄りの公園などが指定されていますので、詳しくは同会にお問合せいただくか、市ホームページをご覧ください。
※地震や風水害の災害種別や状況により、必ずしも近隣の指定緊急避難場所が避難施設とは限りません。

避難場所・避難所にはいくつかの種類があります



命を守る情報を

災害時に命を守るためには、正確な情報を得ることが重要。そのための適切な手段を日ごろから確保しておきましょう。

■ヤマトSOS支援アプリ

防災・防犯などに関する情報を幅広く発信。アプリ上で地図をダウンロードしておけば、災害時などに通信回線に接続できなくても、「広域避難場所」の位置など、必要な情報を確認できます。



iOS用



Android用

■やまとPSメール

携帯電話、スマートフォン、パソコンに防災・防犯などに関する緊急情報などをメールで配信します。



PSメールの登録

■大和市公式LINE

やまとPSメールで配信される情報をLINEでも受け取ることができます。



友だち追加

■FMやまと(77.7MHz)

災害に関する情報を、番組内で速やかに放送します。

FMやまと(77.7MHz)
J:COMチャンネル(11チャンネル)

避難行動要支援者支援制度をご利用ください

「避難行動要支援者支援制度」は、重度の障がいがあるなど、災害時に自力での避難が難しい人の支援方法を事前に確認しておく取り組みです。個人情報の提供に同意した人の氏名や住所などをまとめた名簿を市が作成し、自治会、民生委員、地区社会福祉協議会と共有。災害時の避難支援や安否確認などに活用します。災害時の避難に不安がある人はご相談ください。

対象▶世帯全員が70歳以上、要介護3~5、重度の障がいなどで、自力での避難が難しい人

申し込み▶電話で健康福祉総務課へ。

保健福祉センター健康福祉総務課地域福祉係 ☎(260)5604 ㉠(262)0999

命をつなぐ備えを —大地震を生き抜くため

30年以内に約70%の確率で起きると言われている「首都直下地震」。ライフラインにも深刻な被害を及ぼすと考えられています。神奈川県地震被害想定調査では、「首都直下地震」の一つ「都心南部直下地震」が発生すると、県内全域で上水道が復旧するまでに22日、電力の復旧に12日かかるとされています。「その時」命をつなぐために—。今からできる備えを紹介します。

☎市役所危機管理課防災管理係 ☎(260)5777 ㉠(261)4592

命をつなぐ水

「都心南部直下地震」では、市内で断水の影響を受ける人は9,450人に上るとされています。被災状況によっては給水所の開設までに時間がかかることもあります。そのため各家庭では、次に示す量の飲料水を確保するよう努めてください。

給水所の設置や、支援物資が届くまでのための必要備蓄数の目安

$$1人1日3ℓ \times \square 人 \times 7日(最低3日) = \square \text{ ℓ}$$



水の確保に役立つ給水タンク(写真は10ℓ用)

日常の食事に非常食を取り入れる



非常用の五目ご飯

非常食も各家庭で7日分(最低3日分)を備蓄するよう努めてください。非常食は、栄養バランスの偏りや飽きを避けるため、同じものをたくさん買わないようにしましょう。非常食を無駄なく備蓄するために、日常の食事に取り入れる「ローリングストック法」がおすすめです。

ローリングストック法

- 缶詰めやレトルト食品など、長期保存できる物を多めに買い置き
- 日常の食事に取り入れ、食べた分を買い足すことで、一定量を常に備蓄
- 災害時でも普段慣れている食品を食べることができる



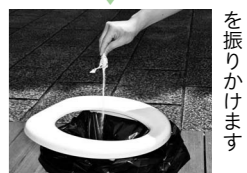
災害時に備えた食品ストックガイド(農林水産省)

避難生活に欠かせない携帯トイレ

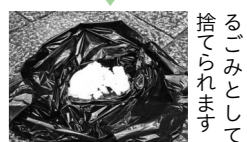
「都心南部直下地震」では、市内の8,030人が下水道の損壊などによる影響を受けるとみられ、復旧までに数週間かかる場合もあります。災害用の備蓄をするうえで、トイレの備えは大変重要です。排泄を我慢することで体調不良に陥ったり、トイレに行かずに済むよう水分補給を抑えたりすることで脱水症状になる人もいます。携帯トイレは水や電気がなくても使用できるので、ぜひ備蓄するよう努めてください。



便器に袋をセット



用を足し、凝固剤を振りかけます



使用後は燃えるごみとして捨てられます

携帯トイレの必要備蓄数の目安

$$1人1日5回 \times \square 人 \times 7日(1週間使用できないとした場合) = \square \text{ 回分}$$